

《幼児教育》

友達との関わりの中で互いに考えを広げる子を目指して
～園児同士をつなぎ、友達の考えに気付く手立ての工夫を通して～

那覇市立城南こども園保育教諭 屋嘉比 大輔

〈研究の概要〉

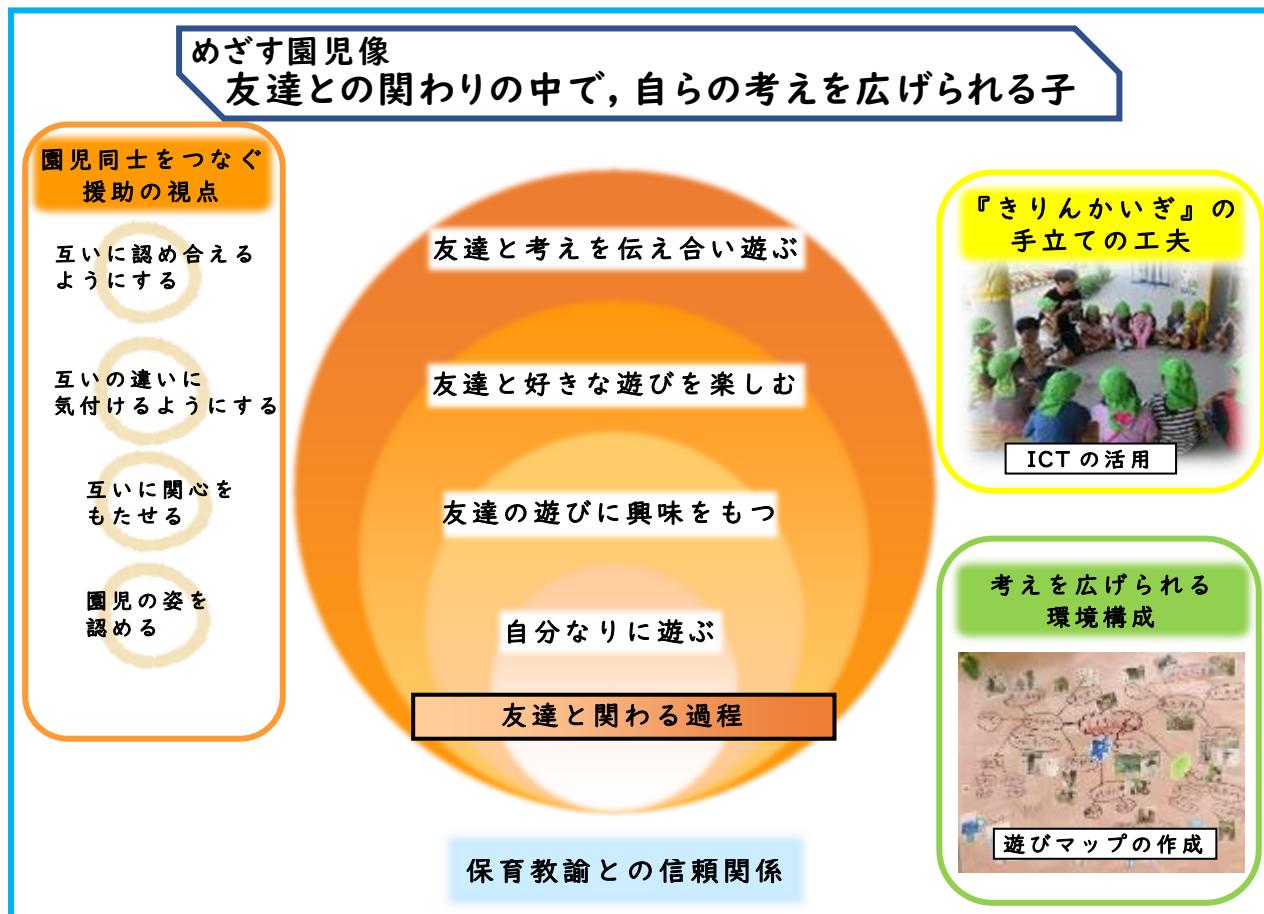
園児の実態として、友達の遊び方や考えに刺激を受け、新たな考えを取り入れながら、互いに考えを広げ遊ぶ園児は少ないということがわかった。

そこで、園児が友達との関わりの中で、互いに考えを広げられるように、園児同士をつなぎ、友達の考えに気付く手立ての工夫について研究した。

実践を通して、互いに考えを広げられる環境構成の工夫や、友達と関わる過程に応じた園児同士をつなぐ援助の工夫、遊びや考えを共有する集まりの場『きりんかいぎ』の手立ての工夫を行った。

その結果、園児は、友達との関わりを深め、互いの遊び方や考えを伝え合い遊ぶ楽しさを味わうことができた。また、友達の考えのよさに気付き、新たな考えを取り入れながら遊びを進める等、様々な遊びへ興味や関心、期待をもち、互いに考えを広げることができたと考える。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究構想図	2
IV	研究内容	2
1	友達との関わりの中で考えを広げるとは	
2	園児の考え方を広げるための保育教諭の援助と環境構成	
(1)	園児同士をつなぐ保育教諭の援助の工夫	
(2)	集まりの場で考え方を共有するための手立ての工夫	
(3)	遊びを通して、互いに考え方を広げられるための環境構成の工夫	
V	保育実践	5
1	保育計画	
(1)	実態把握	
(2)	保育計画	
2	実践事例	
(1)	互いに考え方を広げられる環境構成の工夫	
(2)	集まりの場『きりんかいぎ』で困り感を共有した事例 【考察】	
(3)	園児同士をつなぐ援助の工夫～J児の変容を通して～ 【考察】	
3	園児の変容	
VI	成果と課題	10
1	成果	
2	課題	

《主な参考文献》

友達との関わりの中で互いに考えを広げる子を目指して ～園児同士をつなぎ、友達の考えに気付く手立ての工夫を通して～

那覇市立城南こども園保育教諭 屋嘉比 大輔

I テーマ設定の理由

中央教育審議会答申では、「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になることができるよう、その資質・能力を育成すること」と示している。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(以下教育・保育要領解説)では、資質・能力が育まれている園児のこども園修了時の具体的な姿の一つである「思考力の芽生え」について、「友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え方直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる」と示している。これらのことから、園児が友達と多様な体験を楽しみながら、互いの考えに触れることで、よりよい考えが生まれ、遊びや考えが広げられるような環境構成や援助の工夫をすることが重要だと考える。

園児の姿として、自分の好きな遊びを自ら見つけ遊ぶ姿や、製作遊び等で自分のイメージする作品を集中して作る姿がよく見られる。しかし、友達の遊びを真似したり、作り方を教え合ったりし、友達と考えを伝え合い遊ぶ園児は21名中3名で、遊びや集まりで新しく気付いたことがあると答えた園児は4名であった。このことから、友達の遊び方に刺激を受け、新たな考えを取り入れながら、互いに考えを広げ遊ぶ園児は少ないということがわかった。また、私の保育実践を振り返ると、園児が遊びに興味をもって、意欲的に取り組める手立てを行ってきたが、友達と関わって遊ぶ中で、自分の思いを友達に表現したり、友達の考えに興味をもたせたりする援助や環境構成が十分ではなかったと考える。

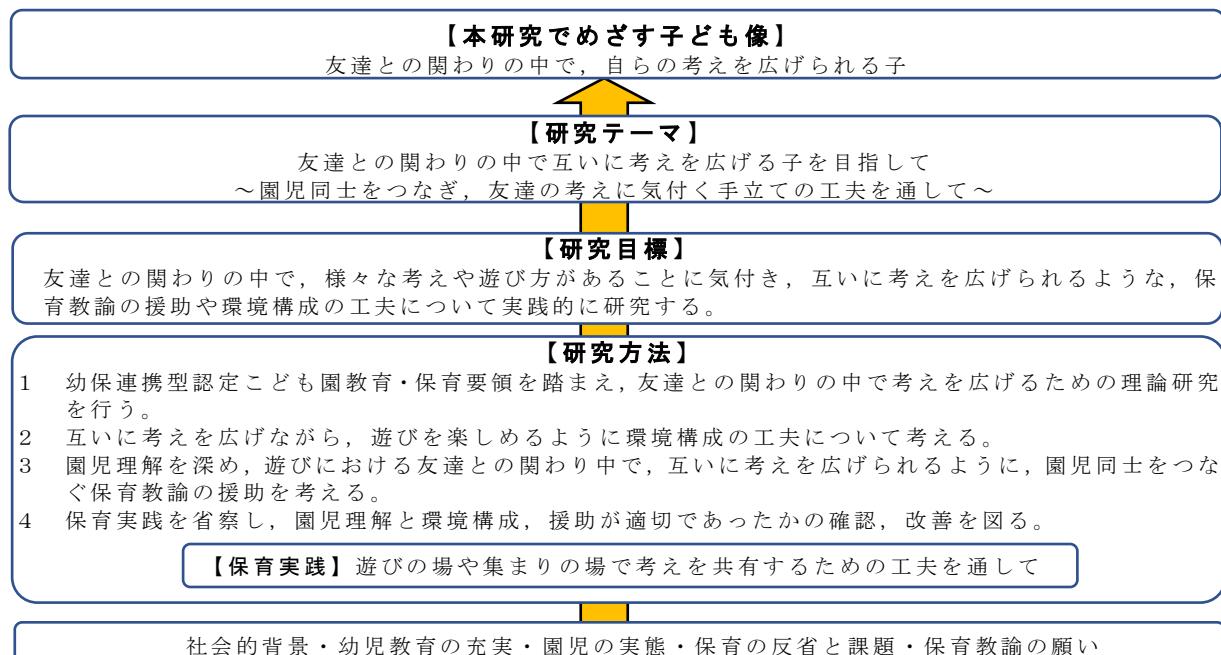
園児が互いに考えを広げるためには、友達の考えやそのよさに気付ける手立てが必要である。そこで、遊びの中で自然に友達の考えに触れ、互いに考えを広げられる環境構成や、友達と関わる過程に応じた園児同士をつなぐ援助の工夫をすることで、友達の遊び方や考えに興味がもてると考える。また、気付いたことや思いを表現し、互いの考えを共有できる場を設定することで、友達の考えのよさに気付き、自分なりに遊びに取り入れができると考える。

本研究では、考えを広げられる環境構成やつなぐ援助の工夫、考えを出し合う場の設定をすることで、互いに考えを広げられるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

友達との関わりの中で、様々な考えや遊び方があることに気付き、互いに考えを広げられるような、保育教諭の援助や環境構成の工夫について実践的に研究する。

III 研究構想図



IV 研究内容

1 友達との関わりの中で考えを広げるとは

教育・保育要領解説「人間関係」において、園児は、「保育教諭等との信頼関係を基盤に自分の居場所を確保し、安心感をもってやりたいことに取り組むようになる」「他の園児と言葉を交わしたり、物のやり取りをしたりするなど、関わりが生まれてくる」と示されている。また、教育・保育要領解説「環境」では、「園児は友達の考えに刺激を受け、自分だけでは発想しなかったことに気付き、新しい考えを生み出す。このような体験を通して、園児は考えることの楽しさや喜びに気付き、自分の考えをよりよいものにしようという気持ちが育っていく」と示されている。園児は、安心感をもつて自分なりに環境と関わり遊ぶ中で、次第に友達の遊びに興味をもち、友達の遊び方や考えに気付く。そして、興味のある遊びを友達と楽しみながら、自分と友達の考えの違いに気付き、自分の考えを表現し、友達の思いを聞く等して、考えを伝え合い、互いに刺激を受け合う。それが、友達の考えのよさを知り、新しい遊びを楽しむことや、新たな考えを生み出すことにつながり、自分の考えを広げることになると考える。

以上の内容と教育・保育要領解説をもとに、友達と関わる過程においての考え方の広がりをまとめた(図1)。本研究では、一人一人の友達と関わる過程を認め、園児が遊びの場や集まりの場で、友達への興味や関心をもち、様々な考え方や遊び方に気付くことで、考え方を広げられるよう、保育教諭の援助と環境構成の工夫を研究していく。

友達と関わる過程	自分なりに遊ぶ	友達の遊びに興味をもつ	友達と好きな遊びを楽しむ	友達と考えを伝え合い遊ぶ
考え方の広がり	自分なりに考える	友達の考えに気付く	友達と自分の考えの違いに気付く	友達の考えのよさに気付く、取り入れる

図1 友達と関わる過程においての考え方の広がり

2 園児の考えを広げるための保育教諭の援助と環境構成

(1) 園児同士をつなぐ保育教諭の援助の工夫

教育・保育要領解説「人間関係」には、「保育教諭等は、一緒に遊ぶ人数に関わらず、園児一人一人が十分に自己発揮しながら、他の園児と多様な関わりをもつことができるよう援助し、園児が遊ぶ中で、共通の願いや目的が生まれ、工夫したり、協力したりする楽しさを十分に味わうことができるようになることが大切である」と示している。このことから保育教諭は、園児が好きな遊びを楽しむ中で、一人一人の友達と関わる過程を捉え、それぞれの園児や場面に応じて友達への興味を引き出し、友達と関わりながら、協力したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わい、互いに考え方を広げられるように援助をしていく必要がある。また、松川(2018)は、「友だち同士をつなぐための保育者の援助の視点」を、「友だちとさまざまな心を動かす出来事を共有し、互いの感じ方や考え方、行動の仕方などに关心を寄せることができるようになる」「互いの感じ方、考え方、行動の仕方などの違いや多様性に気づくことができるようになる」「互いが認め合うことで、より生活が豊かになっていく体験を重ねることができるようになる」「よき理解者として、一人ひとりの子どもに愛情をもって温かい目で見守り、保育者自身が一人ひとりのよさを認める」の4つにまとめている。

以上の内容と教育・保育要領解説、松川の「友だち同士をつなぐための保育者の援助の視点」をもとに、園児の友達と関わる過程に応じた、園児同士をつなぎ、友達との関わりの中で考え方を広げられる手立ての工夫をまとめた(表1)。

表1 園児同士をつなぎ、友達との関わりの中で考え方を広げられる手立ての工夫

友達と関わる過程 考え方の広がり	自分なりに遊ぶ	友達の遊びに興味をもつ	友達と好きな遊びを楽しむ	友達と考えを伝え合い遊ぶ
つなぐ 援助の視点	つなぐ1 認める	つなぐ2 関心をもたせる	つなぐ3 違いに気付かせる	つなぐ4 認めえるようにする
◎援助	◎興味関心に寄り添い、一緒に遊ぶ中で、一人一人の遊びやアイデアを認める。 ◎同じ遊びをしている友達の存在に気付かせ、興味をもたせる。 ◎遊びの中で発見したことなどに共感し、探究心をもって、遊びを楽しめるようにする。	◎友達の工夫している姿を紹介し、遊びに興味をもてるようとする。 ◎友達の遊びに興味を示す園児を誘い、思いを代弁する。 ◎気付いたことなどを友達と共有できることにし、互いに関心がもてるようにする。	◎遊び方等を言葉にして認め、周りの園児に伝えることで、自分の考え方との違いに気付けるようする。 ◎園児の思いや考え方を引き出し、友達に伝えられるようする。 ◎遊びのイメージを共有し、同じ目的をもって遊ぶことを楽しめるようする。	◎考えを肯定的に受け止め、園児が友達の考え方のよさに気付き、取り入れるようにする。 ◎楽しんでいる遊び等をクラスで共有し、様々な考え方を出し合う場を作ることで、互いの考え方を認め合えるようする。 ◎協力して遊ぶことの楽しさに気付かせる。
言葉掛け例	「○○さんの山はとても高いね、どうやって作ったの」 「○○さんの色水は青色だね。どの花を使ったの」 「○○さんのしゃぼん玉はきれいだね」	「△△さんは○○さんはとても高い山を作っているよ」 「○○さんが、青色の色水の作り方を知ってるよ。一緒に聞いてみよう」	「同じ青でも、○○さんと△△さんはどうして違うのかな」 「○○さんの色水にはお花が飾っているよ。きれいだね」 「○○さんはふわふわで、△△さんのしっとりしているね」	「水を流すにはトイをどうやってつなげたらいいのかな。みんなで相談しよう」 「他の友達にもアイデアを聞いてみようか」 「○○さんの考えはいい考えだね。△△さんはどう思うかな」
園児のつぶやき	「～ができた」 「～がやりたいな」 「～がきれいだよ」	「○○さんみたいにやりたいな」 「○○さんの遊び楽しそうだな」	「○○さんは～だけど、△△は～だよ」 「○○さん！～したらいいんじゃない」	「～したいけどできないな。どうしよう」 「～はどうしたらいいと思う」

(2) 集まりの場で考えを共有するための手立ての工夫

教育・保育要領解説「総則」では、「遊びや生活の中で、楽しかったことやうまくできたこと、困ったこと等の情報の交換や話し合いは、次の日の活動への期待や意欲に直接につながる」と示している。また、集まりの場をもつ機会について、「園生活の中で見通しをもったり振り返ったりする機会を捉え、園児の実態に即して、体験を積み重ねていけるように工夫していくこと」と示している。このことから、遊びの場面において、集まりの場で話題となるような、園児の工夫している姿や困っている姿、新たな発見に気付き遊びに取り入れようとする姿等を捉え、集まりの場で共有し、考えを出し合うことで、友達の遊びに興味をもち、自分もやってみようと思い、自分とは違う友達の考えに気付き、新たな考えを次の遊びで取り入れようとする等、様々な遊びへの興味や期待、意欲をもつ姿につながると考える。

そこで本研究では、集まりの場で話題となるような園児の実態を見逃さず捉え、集まりの場をもち、絵本やICTを活用する等、集まりの場の手立てを工夫することで、園児が主体的に参加し、遊びの共有や考えを出し合えるように実践していく。

集まりの場を園児との話し合いから『きりんかいぎ』と名付け、『きりんかいぎ』を通して考えが広がるイメージと手立ての工夫をまとめた(図2)。

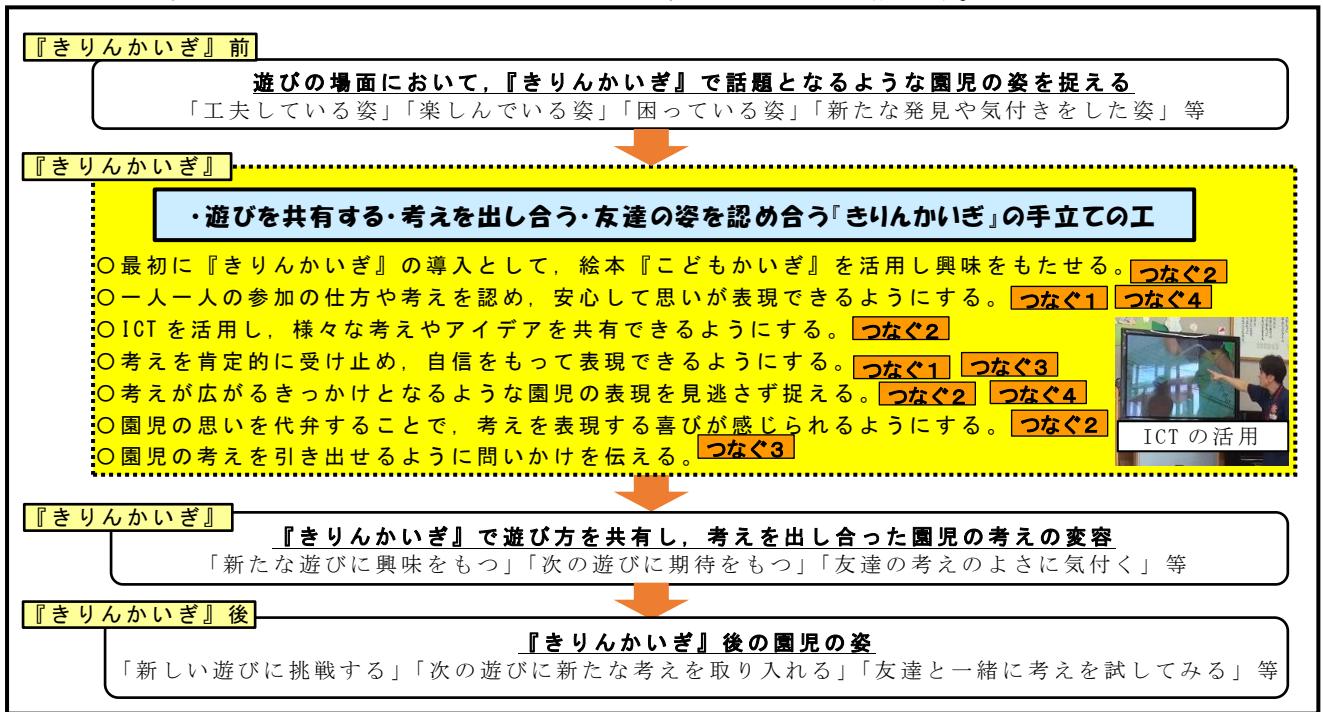


図2 『きりんかいぎ』を通して考えが広がるイメージと手立ての工夫

(3) 遊びを通して、互いに考えを広げられるための環境構成の工夫

教育・保育要領解説「総則」には、「実際の指導場面においては、『知識及び技能の基礎』『思考力、判断力、表現力等の基礎』『学びに向かう力、人間性等』を個別に取り出して指導するのではなく、遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育むよう努めることが重要である」と示している。園児は遊びの中で、新たな発見や気付きを得ると、それらを工夫して遊びに使い、楽しさを感じることでまたやってみようと思探究心が芽生える。保育教諭は園児が、一つの遊びによって様々な資質・能力の育ちにつながるということを理解する必要がある。また、教育・保育要領解説「環境」には、

「自分なりに環境に関わる姿を大切にするとともに、場やものの配置を工夫したり、～(中略)～園児が互いの考えに触れることができるような環境を構成することが大切である」と示している。園児は友達と刺激し合うことで、さらなる発見や気付きを得ることができ、自分の考えをよりよくしようとする。そのため、遊びの中で友達の考えに触れ、互いに考えを広げられる環境構成の工夫が必要であると考える。

そこで、互いに考えを広げられるための環境構成の工夫をまとめた(図3)。

①同じ遊びでも多様な方法を試せるように、様々な形や大きさの道具を準備する。	②遊びや考えを振り返られるように、遊びの様子や『きりんかいぎ』でのアイデアを写真や文字、絵にして可視化する遊びマップを園児と一緒に作成し、掲示する。	③イメージを共有できるように、ケーキなどの写真を遊びの場に表示する。	④同じ遊びに興味をもつ園児が、遊びの中で自然と友達の気付きや考えに触れ、刺激し合える場の設定や、それぞれの遊びが影響し合い発展できるように配置を工夫する。
→①様々な道具(例) 【色水遊び】 ☆すりこぎ(大・小), 茶こし, すり鉢, みそとき, 金魚鉢, ビニール袋, ペットボトル等			

図3 互いに考えを広げられるための環境構成の工夫

V 保育実践

1 保育計画

(1) 実態把握

4月末の実態として、遊んでいる園児の姿を友達と関わる過程をもとに、担任間で見取り、分けた(図4)。友達への興味を示し、一緒に関わって遊んでいる園児は全員で17名だが、その中で、考えを伝え合いながら遊んでいる園児は3名という結果だった。これは、ほとんどの園児が友達への関心が高く、一緒に遊ぶ楽しさを感じているが、互いの考え方や遊び方に刺激を受け、友達の考え方のよさに気付き、新たな考え方を取り入れながら遊ぶ園児は少ないということだと考える。また、教育保育時間終了時に「遊びや集まりで、新しく気付いたことやわかったことはありますか」という園児への聞き取りを行うと「ある」と答えた園児は21名中4名で、その内容は「貝殻の場所を教えてもらった」等、全て遊びの場面での気付きだった。

友達と関わる過程	自分なりに遊ぶ	友達の遊びに興味をもつ	友達と好きな遊びを楽しむ	友達と考えを伝え合い遊ぶ
考え方の広がり	自分なりに考える	友達の考えに気付く	友達と自分の考え方の違いに気付く	友達の考え方のよさに気付き、取り入れる
実践前	4名	5名	9名	3名

図4 友達と関わって遊ぶ園児の実態

(2) 保育計画

○実践	◇ねらい・内容	○援助 ○環境構成
5月 (第2 ～4週)	<ul style="list-style-type: none"> ○砂遊び ○色水遊び ○洗濯遊び ○しゃぼん玉 ○虫探し ○『きりんかいぎ』導入 	<p>◇友達や保育教諭と一緒に戸外遊びを楽しむ中で、様々な素材に触れながら試したり工夫したりして、遊ぶ楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂や花、水等の自然物に触れ、思いっきり遊ぶ。 <p>◇友達に自分の思いや考え方を伝えたり、相手の考え方を聞いたりしながら、様々な遊びに興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや集まりの場で気付いたことを友達や保育教諭と伝え合う。 <p>①様々な材料や道具に興味をもって関わり、試したり工夫したりして、遊べるよう環境を準備する。</p>

6月 (第1~3週)	<ul style="list-style-type: none"> ○色水遊び ○しゃぼん液作り ○泡遊び ○虫探し ○『きりんかいぎ』 ○遊びマップ作成 	<p>◇友達や保育教諭と様々な素材や道具を使いながら、試したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材や道具を使って、遊ぶことを楽しむ。 <p>◇気付いたことや発見したことを友達と伝え合い、共有することで、様々な遊びに興味や関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で気付いたことなどを共有し、遊びマップを作成する。 	<p>◎工夫して遊ぶ姿等を捉え、クラスで共有できるようにし、様々な考え方や遊びに興味がもてるようになる。</p> <p>②遊びや考え方を可視化する遊びマップを作成し、掲示する。</p>
6月 (第4週) 7月 (第1週) 1日(月) 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○泡遊び ・クリーム ○色水遊び ・ジュース ○虫探し ○虫の観察 ○『きりんかいぎ』 	<p>◇友達と、様々な道具や材料を使って、試したり工夫したりしながら、不思議さや面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と様々な道具を使い、遊ぶことを楽しむ。 <p>・色水や泡をケーキ等に見立て、作ることを楽しむ。</p> <p>◇友達の考えに触れ、自分なりに考えたり、思いを伝え合ったりしながら、遊びをさらに楽しくしたいという気持ちをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要なものや道具を友達と相談し、考えを出し合いながら準備し、遊ぶことを楽しむ。 	<p>◎友達と変化やイメージを共有できるように、言葉掛けし、一緒に考えながら遊ぶ楽しさが味わえるようになる。</p> <p>③④別々の遊びが刺激し合い、発展できるような配置や、園児が互いにイメージを共有できるような表示をする。</p>

2 実践事例

(1) 互いに考えを広げられる環境構成の工夫

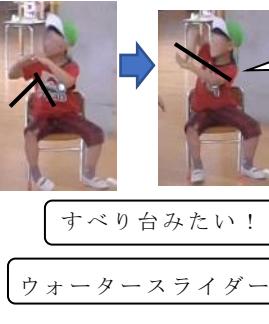
園児の興味や関心を把握し、遊びの中で友達の考えに触れ、互いに考えを広げられるような環境構成の工夫を行った。

<p>①様々な道具を準備</p> <p>様々な道具があることで、カップの水の中で、花をつぶし、色を変える園児や、すり鉢で花をつぶし、少しづつ色水を溜める園児等、多様な方法が見られた。また、多様な方法を楽しめることで、友達同士で互いの方法を教え合い、繰り返し遊ぶ姿が見られた。</p> 	<p>②遊びの様子や考え方を可視化する遊びマップ</p> <p>遊びマップを見ながら、友達と遊びの振り返りをし、次にやりたい遊びを考える姿が見られ、遊びや集まりの場以外でも、興味や期待につなげることができた。</p> 	<p>③写真の表示</p> <p>友達と写真を見ながら作りたいケーキなどのイメージを共有し、イメージを形にできるように考えを伝え合いながら、一緒に作る姿が見られた。</p> 
--	--	---

④同じ遊びに興味をもつ園児が、互いに刺激し合える場の設定

<p>【虫観察コーナー】</p> <p>捕まえた虫を観察したり、虫捕りをしたりして楽しんでいる園児が休息をとれるようゴザを敷いたことで、虫捕りをしている園児たちが、自然と集まり、互いに捕まえた虫を見せ合い、観察する姿が見られた。</p> 	<p>【泡遊び・色水遊び】</p> <p>泡遊びと色水遊びを同じ場にすることで、泡に色水を混ぜて着色する姿や、カップに色水を入れて、その上から泡で作ったクリームをかける等、互いに遊びが影響し合い、発展することにつながった。</p> 	<p>【作ったものを置く場所】</p> <p>テーブルクロスを活用し、ケーキ等作ったものを置けるスペースを準備することで、互いに作ったものを見比べ、違いを見つけたり、アイデアを教え合ったりする姿が見られた。</p> 
---	--	--

(2) 集まりの場『きりんかいぎ』で困り感を共有した事例

これまでの遊びの様子	山作り等を一人で楽しんでいる園児に寄り添い、側で遊んでいる別の園児に気付かせ、つなげる援助をすることで、友達と遊ぶ様子が見られるようになってきた。水路作りが盛り上がりてくると、桶を使いたいという声があったので、友達と一緒に使ってほしいと思い、始めは2~3本準備した。次第に友達と一緒に桶を並べて遊ぶ様子が出てきたので、友達と協力したり、考えたりして遊ぶ機会となるように桶の数を増やした。
『きりんかいぎ』につながる園児の捉え	友達と桶をつなげ、水を流そうと挑戦しているが、中々つなげることが出来ず、困っている姿が見られた。絵本「こどもかいぎ」を活用したことでの遊びの場面の共有や、考えを出し合う『きりんかいぎ』に興味をもっている様子があつたので、困っているA児に『きりんかいぎ』で相談することを提案すると、「いいね」と返事があった。 
つなぐ1 認める つなぐ2 関心をもたせる つなぐ3 違いに気付かせる つなぐ4 認め合えるようにする	
○園児の姿	☆環境構成 ◎援助 「言葉掛け」 つなぐ視点
A児 ○自ら手を挙げ、砂場遊びでの困ったことを友達に発表する。 「砂場遊びで、水を流すやつ」	◎遊びを振り返り、友達と相談したいことを引き出しながら、友達の遊びに関心がもてるようになります。 つなぐ2 「『きりんかいぎ』で話したいことがありますか」
【動画を視聴】  A児 ○動画を視聴することで、遊びの場面を具体的に振り返り、自分なりに説明をしている。 「穴が開いているところに水を入れたかったけどあっちにいってる！」	◎園児の思いを受け止め、友達の考えが引き出せるように、わかりやすく代弁する。 つなぐ1・2 「桶をつなげたかったんだけど、つなげられなかつたからどうしたらいいか相談したいんだよね。先生、動画を撮ったから見てみよう」
○桶の組み立て方をイメージし、自分の腕をつかいながら、自分の考えを表現する。  B児 こうなっているから、こうしたら流れる！ 【B児を真似しているA児】 すべり台みたい！ ウォータースライダー	◎遊びの場面を映像で視聴することで、イメージを共有できるようになります。 ☆映像が見やすいように教諭の前に集まる。 ☆遊びの場面の動画をタブレットで流す。 つなぐ2
○発表は難しくても、考えをつぶやく園児もいる。 C児「(トイのつなぎ目に)シール貼る」	◎動画を視聴しながら、A児の困り感を具体的に伝え、みんなで考えられるように問いかけをする。 つなぐ3 「ここに(穴)に水を溜めたいのに、どこに流れてる？」 「どうして、穴に水が流れないのかな？」 ☆動画を視聴後、円型に座って話し合う。
○友達の考えを聞きながら、自分なりに考える A児の姿が見られる。 A児「ガムテープ」 ○友達の考えを聞き、自分なりに取り入れて、新たな考えを話す。 D児「なんかで止める」	◎考えや表現方法を肯定的に受け止め、桶の形のイメージを共有できるように言葉掛けをする。 つなぐ3 「なんの形に見えるかな？」
	◎遊びをイメージし、具体的な方法を自分なりに考えられるよう言葉掛けをする。 つなぐ3 「この形にするにはどうしたらいいのかな？」 「いい考えがある人は教えてほしいな」
	◎考えが広がりそうな意見を見逃さず拾い、肯定的に受け止め、全体に共有し、友達との考えの違いに気付き、互いに考えを認め合えるようにする。 つなぐ3・4 「Cさんがシール貼るってよ！いい考えだね」
	◎友達の考えを自分なりに取り入れ、新たに考えを話す姿を言葉にして認めてことで、互いに考えが広がるようにする。 つなぐ4 「DさんはCさんがシールって言ってたから、なにかで止めたらしいと思ったんだ」

<p>B児 「テープは水でとれちゃうよ」 「木の棒で止めたら」</p> <p>E児「支える」 F児「高くする」</p> <p>G児「固いものを置いて斜めにできるようにする」</p> <p>H児「コンクリート」 I児「長い箱を置く」</p> <p>B児「長い箱を作ろう！」</p>  	<p>◎さらに考えが広がる意見を取り上げ、考えを促す。 つなぐ2・3 「Bさんがテープは水ですぐとれちゃうから、木の棒で止めるって話しているよ。止めるってどういうことかな」「木の棒でどうするの？」</p> <p>◎考えを深めることにつながる意見を繰り返し言葉にし、新たな考えを促す問い合わせをする。 つなぐ2・3 「高くして支えるんだ。木の棒ないけどどうする？」</p> <p>◎考えを深め、明日の砂場遊びにつなげるために、問い合わせをする。 つなぐ2・3 「固いものを置くんだ。固い物ってなにがある？」</p> <p>◎考えを振り返り、明日の遊びの期待や興味につながるように言葉掛けし、園児から出たアイデアを形にすることで、明日の遊びへの期待を高める。 つなぐ4 「いろんな考えが出たね。明日やってみようか！！何が必要かな？」</p>
<p>～『きりんかいぎ』後～</p> <p>○砂場遊びで使用する道具を作り、明日の遊びに期待をもつ。</p> <p>○箱作りに必要な道具を話す。 H児「テープで貼ろう」 B児「ガムテープがいいよ」</p> <p>○気付いたことを言葉にして話す。 B児「段ボールだったら濡れるよ」</p> <p>B児「ビニールをかぶせればいいんじゃない」</p>  <p>○友達の考えを聞き、肯定的に返事をする。 他児「いいと思う」「いい考え方じゃん」</p>	<p>◎園児の考えを受け止め、事前に準備していた、段ボールをもってくる。 つなぐ4 「長い箱だったら段ボールでできるかな」</p> <p>◎考えを伝えられるように代弁する。 つなぐ3 「Bさんが、ガムテapeがいいって話しているよ」</p> <p>◎気付きを受け止め、考えが深まるよう問い合わせる。 つなぐ1 「そうだね。濡れないようにどうしたらいいと思う？」</p> <p>◎イメージを共有できるように言葉にする。 つなぐ4 「Bさんいい考えだね。みんなも雨のときに、かっぱを着るからそれと同じじゃない」</p> <p>◎同じ目的をもって作れるようにする。 つなぐ4 「ビニールをかぶせたら濡れても大丈夫かもね。みんなはどう思う？」</p>

【考察】

砂場遊びにおける園児の困り感を捉え、『きりんかいぎ』で映像を視聴したことで、A児の困り感を明確に共有することができた。考えを出し合う機会をもったことで、砂場遊びに参加していなかった園児も、「桶をどうすれば水を流せるか」という問題に対して興味をもち、様々なアイデアを出す姿が見られた。また、園児の考えを受け止め、園児から出たアイデアをすぐに実現できるように援助をしたことで、砂場遊びへの興味や期待をもつ園児が増え、前日遊んでいた園児に、新たに5名の園児が参加し、砂場遊びを楽しむことにつながった。さらに、困り感を伝えたA児も『きりんかいぎ』で出た友達の考えを取り入れようと、試したり工夫したりする姿が見られ、友達の考え方よさに気付くことができたと考える(図5)。



図5 砂場遊びを楽しむA児

(3) 園児同士をつなぐ援助の工夫 ~J児の変容を通して~

これまでの J児の育ち	友達への興味はあるが、一緒に遊ぶ姿はあまり見られず。友達の遊びを側で観察するところが多かった。保育教諭が遊びに誘うと、少しずつ遊ぶ姿が出てきた。また、『きりんかいぎ』で友達のクリーム作りを共有したことで、やってみたいと興味を示している。				
	【友達の遊びに興味をもつ】 → 【友達と好きな遊びを楽しむ】				
つなぐ1 認める	つなぐ2 関心をもたせる	つなぐ3 違いに気付かせる	つなぐ4 認め合えるようにする		
○園児の姿	☆環境構成	○援助	「言葉掛け」	つなぐ視点	
J児 ○泡遊びの道具を準備するが、周りに誰もいないテーブルで始めようとしている。 J児 ○保育教諭の提案を聞き、場所を移動し、遊び始める。 ○『きりんかいぎ』で見た、友達の工夫を自分もやってみようとビニールに泡を入れて、ケーキを作ろうとしている。 ○隣で遊んでいる園児もいるが、関わる様子はない。 ○保育教諭を呼び、ビニールの角を切ってもらう。			 ◎同じ遊びを楽しんでいる友達に関心をもてるようにならせる。つなぐ1 「Jさん、あっちのテーブルだとすぐ石鹼がとれるから移動しよう」 ☆同じ遊びに興味を持っている園児が互いの遊び方に気付けるように丸テーブルを準備する。 ☆多様な遊び方が出来るよう様々な道具を準備する。	 ◎J児のビニールの角を切りながら、側にいるK児に話しかけ、興味がもてるようになる。「Kさん。ビニール切るとどうなると思う？」	つなぐ1・2
K児 「全部じゃーってなりそう」 J児 ○ビニールを切ると、中から水がたくさん溢れ、クリームにならなかつた。 K児 「全部水入れるからだよ。泡と少ない水を入れるんだよ」		 ◎K児の考えを引き出し、J児が友達の考えに気付けるように言葉掛けをする。つなぐ2・3・4 「Kさん。どうしてこうなったと思う？」	 ◎K児の考えに共感し、J児に伝え、K児の作った泡との違いに気付けるようになる。「つなぐ1・2・3 「そなんなんだ。Jさん、水は少なくいれるってよ。Kさんのクリームはふわふわだね」	 ◎K児から教えてもらったことを、J児が取り入れられるように言葉掛けをする。つなぐ3 「Jさん。水が多かったみたいよ。次は少なめにつくってみようか」	 ◎J児の残念な思いを受け止め、代弁することで、やりとりをするきっかけをつくる。つなぐ2・3 「Kさんのクリーム、少しJさんに分けてもいい？」
J児 ○K児の泡と自分の泡を見比べる。 J児 ○クリームが上手に作れず、残念そうな表情を浮かべるが、保育教諭の言葉に頷く。		 ◎J児が自分で伝えられるように仲介する。つなぐ3 「Jさん。Kさんにお話したほうがいいんじゃない。クリームもらっていいかきいてごらん」「Kさん、Jさんがお話しもあるって」	 ◎K児の優しさを認め、思いを代弁する。つなぐ1 「Kさんクリームありがとうね」	 ◎友達の良さや一緒に遊ぶ楽しさに気付けるよう言葉掛けをする。つなぐ4 「Kさんがクリームてくれたから。おいしそうなケーキができたね」	
J児 「K児の友達と関わる過程が変容している場面~」 J児 「クリームもらっていい？」 K児 「いいよ」 J児 ○K児からもらったクリームを嬉しそうにケーキにかける。					
J児 ○K児に自分から言葉をかけて遊びに誘う。 「今日一緒に遊ぼう」 K児 「いいよ！」					

【考察】

保育教諭がつなぐ援助を工夫し行ったことで、友達の様子に興味を示し、自分と友達の泡を見比べる等、やりとりを楽しむことができた。また、遊び方の違いや一緒に

遊ぶ楽しさに気付き、自ら遊びに誘う姿も見られた。そして、友達との関わりが深まつたことで、J児の友達と関わる過程が、「友達の遊びに興味をもつ」から「友達と好きな遊びを楽しむ」に変容したと考える。

3 園児の変容

実践後、友達と関わる過程をもとに園児の観察を行った(図6)。その結果、考えを伝え合い遊ぶ園児が3名から11名に増えたことがわかる。これは、環境構成やつなぐ援助の工夫により、互いに考えを出し合って遊ぶ楽しさを味わうことができた園児が増えたからだと捉える。また、「遊びや集まりで、新しく気付いたことやわかったことはありますか」という聞き取りでは、「ある」と答えた園児が、検証前の4名から15名に増え、その内容のほとんどが『きりんかいぎ』で得た気付きだった(表2)。

以上のことから、『きりんかいぎ』で、遊びを共有したり、考えを出し合ったりすることで、友達の考え方よさに気付き、新たな考え方を取り入れてみようとする姿が見られ、様々な遊びへの興味や期待につながったと考える。また、『きりんかいぎ』で生まれた新たな考え方を実現しようと、遊びの中でも友達と考え方を出し合いながら、試したり工夫したりして遊ぶ姿が見られ、友達と協力して遊ぶ楽しさを実感し、互いに考え方を広げることができたと捉える。

友達と関わる過程	自分なりに遊び	友達の遊びに興味をもつ	友達と好きな遊びを楽しむ	友達と考えを伝え合い遊ぶ
実践前	4名	5名	9名	3名
実践後	2名	2名	6名	11名

図6 友達と関わって遊ぶ園児の実態

表2 友達と関わって遊ぶ園児の実態

遊びや集まりで、新しく気付いたことやわかったことはありますか。	
「ある」と答えた園児	実践後「ある」と答えた理由
実践前 4名/21名	実践後 15名/21名 ・とかげは触りすぎたらダメ・あさがおの種は茶色になつたら取る ・○○さんのパフェが作りたい・泡のケーキを作りたい等

VI 成果と課題

1 成果

- (1)互いに考え方を広げられる環境構成の工夫をしたことで、園児が、遊びの中で自然と友達の考え方触れることができ、互いの遊び方や考え方を教え合う姿につながった。
- (2)保育教諭がつなぐ援助の視点をもって、遊びや集まりの場で言葉掛けの工夫をし、遊び方や考え方を共有したことで、園児は、友達の考え方よさに気付き、新たな考え方を取り入れる等、互いに考え方を広げることができた。

2 課題

生活や遊びの経験を、『きりんかいぎ』で「相談したい」「教えたい」等、園児自ら考え方を広げたいと思えるように、様々な環境に好奇心や探究心をもって関わることができる環境構成や援助を意図的・計画的に行っていく必要がある。

《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018

『園児が心を寄せる環境の構成』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 2022

『新時代の保育双書 保育内容人間関係第2版』

濱名浩編者 みらい 2018